

## 第5回滑川市まちづくり共創会議開催結果

開催日時 令和5年1月10日（火） 17:00～19:00  
会場 滑川市役所3階大会議室  
出席者 委員14名、藤野英人特別アドバイザー、  
市長、副市長、総務部長、事務局（企画政策課）

|    | 委員     | 備考  |
|----|--------|-----|
| 1  | 星名 照彦  | 座長  |
| 2  | 廣瀬 淳   | 副座長 |
| 3  | 福井 信英  |     |
| 4  | 清水 義彦  |     |
| 5  | 土肥 薫   | 欠席  |
| 6  | 石田 拓人  |     |
| 7  | 深井 あゆみ |     |
| 8  | 樋口 幸男  |     |
| 9  | 桶川 高明  |     |
| 10 | 砂子 典章  |     |
| 11 | 金川 奈那美 |     |
| 12 | 浦田 結那  |     |
| 13 | 長瀬 めぐみ |     |
| 14 | 由井 千尋  |     |
| 15 | 山内 大河  |     |

議 事 ・デジタル化とスマートシティについて（追加事案）  
①交流・関係人口の拡大について  
②滑川市の将来ビジョン（目指すべき姿）について

ポイントごとに自由に意見を交わしていただいた。内容については別紙のとおり。

## 【議 事】 デジタル化とスマートシティについて（追加事案）

座長

それでは、初めに前回のテーマである「デジタル化とスマートシティ」について、追加のご提言があったと事務局より聞いている。ご提言あった委員からお願いしたい。

委員

前回の会議で言いそびれたことがあったので、メールで送らせてもらった。

市のコミュニティバスをもっと積極的に活用できないかということを考えている。僕たちはあまりコミュニティバスに乗らないのではないかと考えている。

滑川市は「天然のコンパクトシティ」と言っていたりもするが、確かに狭いエリアに色々な機能が集まっていて、カーボンニュートラルの観点からも、高齢化社会が到来した際の市民の足としても、バスが日常的に使われているという状態になれば良いと思う。ただ、僕も含めて市民は、バスに乗る経験をあまりしてないと思っている。自由乗降の話もあったが、そもそも乗ったことがないから怖くて乗ることができないみたいというところもあると思っている。僕の家にもバス停があるが、バス停に居るのは80歳以上の方だったりして、若い人はほとんどいない。これは凄くもったいないと思っている。

例えば、市のイベントの日や雨の日は、市民に積極的にバスの時刻表を案内して、バス移動を推奨するということができたら、良いのではないかと考えている。他にも子どもたちが、バスで様々な習い事や公共施設に行くことができる状況をつくるというところで、雨の日や小さいお子さんがいらっしゃる方などが、家から児童館へバスで行くことができる状況をつくっても良いのではないかと考えている。小さい頃からバスに慣れ親しんで乗る状況をつくらないと、これから廃れていく一方で、折角市のお金を使って巡回しているのに、ほとんど活用されない。

免許返納などもこれから起きてくると思うが、高齢化社会が到来してからも、バスを使ったことがあるという状況をつくることできれば、非常に効果的に活用できると思う。

市バスの活用は、例えば学校や習い事での活用といった教育促進や公共施設の利用促進、働く親御さんの負担軽減。この働く親御さんの負担軽減という視点を、是非市バスの活用に入れたい。後は観光の利便性向上。これは第2回の会議でも話題になったと思うが、是非市のイベント等を通じて市バスに乗る経験を増やす取り組みをしてもらえると思う。

座長

今ほどのご提言がを踏まえて、何か他にご提言はあるか。

委員

この話をもう少し膨らませても良いのではないか。

私は職場に行くのに、富山市の岩瀬浜のフィーダーバスルートを毎日通っている。前のフィーダーバスは途轍もなく真っ黒なガスを出していて、クリーンではなく、お客さんも空っぽだった。結構な頻度で走っているのを見て、「どこがエコなんだ」とずっと思っていたが、今は少し排気ガスが綺麗なバスになってきた。

滑川市のバスに、私は乗ったことがある。もっと乗りたいと思いつつも、やはり利用しにくい。それはバス停の場所と頻度が原因だと思う。この2点を上手くクリアできたら良い

のではないかと常々思っていた。

高校の探求活動では、企業を高校に呼んで、学生が課題をもらって提案をする、課題解決するということをやっている。あるバス会社から、「若者の視点で是非バスが存続できるような提案をして欲しい」という課題が出た。学生チームの提案の中に、家の近くにバス停がないとなかなか使わないので、「手を挙げて、いつでも止まってくれるような、バスの利用の仕方ができないか」という提案が出た。皆も良い提案だと話が盛り上がったが、バス会社の答えは、法や規則の関係で「やりたくてもできない」という話にもなった。

市のバスは、税金を投入して、ガソリンや軽油で走っているものであるし、あまり使わなくて空気を運んでいる状況が見えているので、これを私たちがこの会議の中で、それぞれの職種、それぞれの年齢の人たちが意見を戦わせて少し絞り込んだら良いのではないかと考えた。

委員

私もその話を聞いていて、良いとは凄く思うが、子どもたちは目的地ありきである。バスに乗ったら直ぐにそこに行きたいと思っている。どうして子どもたちが自転車を使うかと言うと、そこまで直ぐに行けるから。できるかどうかは別にして、学校から真っ直ぐ児童館などに行けないと、どこかに寄ると、もう嫌になってしまう。そういうところも解決するか、もしくは、その間をどうやって楽しませるかを考えないと、なかなか難しいと思う。高齢者もであるが、交通安全のことを考えても、子どもたちに積極的に使ってもらうには、その利便性を最大限に考慮してあげないと、子どもは使わないのではないかと考えている。各学校まで行って子どもたちを乗せて、帰りも学校まで乗せないと駄目なのではないかと聞いていて思った。

委員

本当に基礎の基礎であるが、僕はバスの乗り方が分からない。どこを見てお金を払えば良いのか分からないし、どういう風に乗ったら良いのかも分からない。都内で暮らしていたが、電車ばかりでバスを使ったことがない。富山に来てからも車通勤なので使い方が分からない。「使い方が分からない。金額が分からない。だから使わない」という人もいるのではないかと考えていて、その辺の改善も必要だと思う。

委員

私もバスに乗りたいと思うことはあるが、家の前を通るバスの時間が早過ぎたり、目的地の近くに行かなかつたりするので、乗る機会はない。あまり使おうと思うことがないので、バスの時間を見直していただければ良いと思う。

委員

西滑川駅から滑川高校まででも、ゆっくり歩いて10分くらいかかるので、そこに丁度良くバスが来たら良いのではないかと。歩道橋の坂も結構きついで、バスがあったら楽だと思う。

委員

僕もあまりバスに乗る方ではないが、確かにもっと自分が必要とする時に来て欲しいというのは凄く分かる。この話はデジタル技術などでバス停の近くに人がいるかどうかなどの判断ができれば、例えば近くに人が居ないとなるとそこを通過することも、(運用としては)

難しいのかもしれないが、可能ではあると思う。そういう実際に人がいるかどうかなどをデジタル技術などで測定することができれば、少し改善することができるのではないかと考えた。

#### 委員

私は2年半未だに車なし生活をしているが、コミュニティバスには2回くらいしか乗ったことがない。(その時は)蓑輪温泉に行った。滑川博物館までバスで行き、そこから登山の練習がてら歩いて行ったが、土地勘がない私からすると、調べにくかったというのが正直なところだった。でも、帰りのバスに乗った時の夕日の景色は少し感動して、また乗りたいと思った。

土地勘がないと、携帯でも見ることができるが、紙ベースのものがなくて少し調べにくかった。それは都会も一緒だと思うが、「何々ルート」とあっても、そのハードルは高いと思った。

その時に、子どもの頃から「バスに乗ればここに行ける」という経験はやはり大事だと思ったので、子どもたちが使いやすい時間に増便してもらおうというところから始めると良いのではないかと考える。人が良く使う時間帯を増やして、後は今の俥でも全然良いと思う。「少し飲んで帰ろう」という人などもいると思うので、ニーズは少しずつ開拓していけるのではないかと考える。コストの問題もあり、ニーズが無いのに増やすのも無理なので、「(お酒を)飲んで帰れるまち」とか「お年寄りでも過ごしやすいまち」とか、何か理由をつけてそこに集中的に使うというのが良かったと思う。

#### 委員

バスは恐らく、買い物あるいは病院に行く時間帯を中心に、ボリュームゾーンになっているのではないかと考える。

100円バスでは、バス運行で利益を出すということは原則難しい中で、先ほどから出てくる子どもの観点、買い物に行く観点、高齢者等が病院に行く観点と、夜に我々が使う観点ということで。バスも非常に難しいルートになっており、もう少し工夫できないかと考える。私の家は、物理的に現状のダイヤでは飲みに行ってバスで帰るということができない。せめて滑川駅と中滑川駅の間を循環で走ってくれれば、活性化に繋がるのかなと思った。ただ利益には繋がらない。どうやって安定的に運営していくのかといった時に、例えば五反田のTOCは、五反田駅から2kmくらいだが民間に委託してバスが常に無料で走っている。それが営利なのかは分からないが。

滑川市もバスの広告とバス停の命名権のようなものもやっていると思うが、そういったものをもう少し活性化していくと、夢が広がっていくのではないかと感じる。

#### 座長

これだけで今日の時間が終わってしまうくらいの勢いで素晴らしい意見が出ているが、他に何かご提言はあるか。

#### 委員

飲みの時間にバスが出たら僕も助かる。辺鄙なところの飲み屋で良く言われるのは、「代行代がかかる」ということ。

僕は車を持っているので、免許を返納した後くらいしかバスを使うイメージができない。買い物などという話だったが、全然イメージができないので、利用シーンのイメージをも

っと発信しても良いと思う。どういう風に使ったら良いかというのが全く分からないと、結局車で行くことになると思うので。「環境に良い」と言われても、やはり利便性の良い方を使ってしまうのが人の性というところがあるので、「こういう時に使うと便利ですよ」というのを発信したりとか、先ほどの意見のように子どもたちにまず使ってもらおうとか。

例えば、近場の遠足でコミュニティバスを使ってもらおうとか、何かしら使うきっかけを与えていくというのがあっても良いのではないかと思う。

以前も言わせてもらったが、都会で流行っているLOOP（ループ）とか、マイクロモビリティと言われている電動キックボードだったりとか、そういう話題性のある小型電気製のもので、バスだけに頼らずに。蓑輪などはバスでないと寒いし遠いというのはあると思うが、ほたるいミュージアムや瀬羽町など、近場を移動してもらう分には電動キックボードなどの、話題性のあるものを入れることで、若者の利用者が増えたりとか、これからの時代に合った動きを先進的にできるのではないかと思う。

座長

藤野特別アドバイザーからも一言いただきたい。

藤野特別アドバイザー

地域交通は、実は地方だけでなく今、横浜や東京でも問題になっている。横浜などにも非常に不便な所があり、かつ集合住宅などがある昔のニュータウンと呼ばれる所に、シニアの人たちが沢山いて、足に困っているということがある。だから、これをどのように解決するかが凄く大事である。

ご存じかもしれないが、朝日町で博報堂とスズキ自動車とともに「ノッカル」というサービスを実施している。住民の間で車を運転して、比較的安価な形で地域サービスをするというようなやり方をされていて、勿論、様々な課題があるが、利用度が上がってきている。バス路線を廃止したところに、この「ノッカル」の仕組みを導入しており、今度、高岡でもやろうという話がある。こういうことも研究されると良いと思った。

## 【議 事】①交流・関係人口の拡大について

座長

それでは5回目のテーマの1番目、交流・関係人口の拡大についてということで、話を進めたいと思う。対話の前に、柿沢副市長から説明していただきたい。

柿沢副市長

交流・関係人口というのはテーマとして凄く大事だと思っている。

例えば、富山県では「幸せ人口1,000万人」というキャッチフレーズを掲げて、富山県の人口は100万人だが、県外の人が900万人いて、1,000万人は関係している人達ということである。委員の皆さんも、ずっと富山県滑川市に住んでいる訳ではなくて、Uターン・Iターンとか、県外に行って来られた方、そもそも初めてこちらに来ていただいた方もいらっしゃる。そういう方々も大事であるし、今現に別の所に住んでいらっしゃる方ともオンラインで繋がっている。お忙しいのにオンラインがあるから、藤野特別アドバイザーとも繋がらせていただき、ご意見をいただけるということであり、ここも大事だと思っている。

滑川市の取り組みについて、ご説明させていただく。

資料2の①だが、滑川市では空き家等での居住体験を通じた課題発見ということで、県外の方を募集した。応募者は4人で、①番の40代の女性は8月に一戸建ての空き家に住んでいただいた。今はインスタで毎日のように滑川のことをアップし続けていただいております。正に関係人口で、滑川のファンになっていただいている。②番の方は9月から11月に住んでいただき、大学生に来ていただいて色々な活動をしていただくということも提案いただいている。③番の男性は滑川市に来ていただいて、樋口委員と一緒に若者が集まる場を作らせていただいて、これまで3回ほどその場をやらせていただいている。④番の女性は今、その空き家にお住まいであるが、来年の春には大学院を卒業して、今は県外の関係人口だが、富山県に移住し滑川でもご活動いただくという予定になっている。こうした方々に地域づくりに大変ご貢献いただいている。4人ではあるが、大きな成果が出てきている。

資料2の②は、「とやまる子チャンネル」。とやまる子さんに第1弾では空き家の紹介、第2弾では空き家を利用した飲食店巡りをしていただいた。第3弾ではアニメーションで移住・定住のPR。

他の資料としてはお試し地域おこし協力隊の募集のチラシ。地域おこし協力隊の方にも活動いただきながら、交流・関係人口の拡大に取り組んでいきたいと思っている。

座長

今ほど柿沢副市長からご説明があったが、交流・関係人口の拡大についての皆さんのご意見・ご提言を聞いていきたいと思う。

委員

滑川市に移住したら、手厚い補助が受けられるというのは以前から知っていて、凄く魅力的だとは思っていたが、家族がいるのと、仕事もあったりして、ハードルが高くて利用できなかった。東京だと居心地が悪いと言うか、疲れることも多いので移住したいとは常々思っただけでも、生活基盤がどうしてもあるので、似たような自治体のものを拝見していても、なかなかそのハードルを超えるのは当事者として難しいとは考えている。地元とか

育ったところに対して、何かしらの形で戻りたいというのは常々感じているが、移住に特化して「何かしてください」と言われると結構辛いところがある。その一方で、リモートの時代なので副業という形で滑川市と何かするというのは空き時間でできる。関係人口を増やすという観点で、何か滑川と仕事をしたり、メリットがあるような何かがあれば、興味を持ってくれる人が増えたり、手を出しやすいのではないかと常々、感じている。例えば、先ほどの資料にある地域おこし協力隊は、いまいち何をして欲しいのか分からない。スマホ教室を開いて欲しいのか、バズらせたいのか、移住して欲しいのか。魅力と言うか、メリットに欠けるのではないかと感じている。目的をもっとシャープにするようなやりの方が、他所に居て全く接点のない人にとっては、明確で良いのではないかと感じた。

#### 委員

他市で地域おこし協力隊の受け入れをしている農業法人の知人がいるが、地域おこし協力隊の方とお話をするのが良くあるが、市や県から「これをやってください」と言われることは基本的に雑用みたいなものになっていて、「僕らはこれをやりたくて町に来たんじゃない」という意見を良く聞く。実際に僕もそうだろうなと思っている。もし、地域おこし協力隊を受け入れるのであれば、地域おこし協力隊の方に「これがやりたいです」という提案をしてもらって、それをこの町の中で実現していくような形にしたほうが良いのではないかと感じている。もう一つ、良く3大都市圏とか、東京限定とかになっているが、別にどこから来ても良いのではないかと感じている。

#### 委員

私はコロナが流行るタイミングで移住してきたということもあり、最初の頃は鬱になるのではないかとというくらい辛かった。元の居住地でまちづくりや、自分でコミュニティをつくったり、そういう仕事もしてきたので、移住しても大丈夫だろうと移住してきたが、そんな私ですら、コロナがあったからというものもあるが、情報が手に入らない、人との集いに行けない。富山市にはある。黒部にも地域おこし協力隊がいたりするが、滑川に本当はないというのが結構辛かった。お試し居住体験の方が樋口さんと一緒に企画されている、ああいう場は私は凄く嬉しくて、同世代の人たちが集っている場があることが、最近は楽しみだったりする。それを行政がやるのは私は違うと思っている。民間が勝手にやっているところに入るから楽しいのであって、行政が云々されても少し敷居が高い。企画してくれることは嬉しいが、その先は民間が勝手にやっている状態があつてこそそのコミュニティだと思う。地域おこし協力隊は「こんなことをやってください」とミッションを渡されるよりは、楽しいところに行った先で楽しい人に出会うから、「何かやってみよう」という風なサイクルが回るので、逆なのではないかと思う。行政で提案していただけることも非常に有り難いが、もう少し民間の中で動いていくような機運があつたら良いと思う。今はまだ本当に少ないので、どうしたら民間の人たちが勝手に各々で企画をつくるような町になるかというところを考えていただいた方が、繋がるきっかけが増えて、そこから勝手に外の人が情報を得て来てくれるきっかけになるのではないかと思う。

## 座長

何か耳が痛いような話を聞かせていただいで。行政だけに頼るなということであると思うが、本当に良い話を聞かせていただいたと思う。

ここまでのご意見も踏まえて、他に何かご提言・ご意見はあるか。

## 委員

うちは6人くらいで倉庫の中で雑魚寝で住むという、凄くインドみたいな生活をしているが、僕以外は全員県外出身である。何か面白そうというノリで皆来て、生活環境も全然良くないのに、楽しく毎日過ごしている。多分、皆、滑川で生活する人生なんて思い描いていなかったと思うが、気づいたら滑川にいるみたいな子たちがいる。

定住でなくても、本当に頻繁に県外からうちは旅人だったり、元々の知り合いだったり、噂を聞きつけてという人などが、訪れてくる。1泊2日や2泊3日で帰って行くので、そういう人たちに「もっとゆっくりしていきなよ」と言いたいが、それにはもう少し生活環境とか、仕事とか、色々あるので。でも、関係人口という意味では、1泊2日や2泊3日くらいで滑川市に触れる人たちの数を増やすというのも、一つ重要なことだろうと思う。先ほどの古民家を活用して、4人の方が移住体験をされていたのも凄く良いと思うが、もっと流動的な場所を滑川市のどこかにつくるというのも良いのではないかと考えている。例えば今、多拠点生活のサブスクもある。ADDRESSとか、LivingAnywhere Commonsとか。今は「パソコン1台あれば生きていける」という人が凄く増えてきていると思う。別に場所はどこでも良くて、Wi-Fiとある程度の寝るところさえあれば生きていけるという人も増えてきているので、一つの宿というか、ある一定の短期間だけ住む場所が滑川は凄く少ないとされている。単純に宿も少ないと思うが。

古民家活用と言うと長期での移住というイメージが強いと思うが、もっと流動的に短期間だけでも、滑川に触れられる拠点をつくっていくというのが良いのではないかと考える。

後はゲストハウスみたいな、安く1泊2泊気軽に泊まって、その辺のコワーキングスペースや宿についているコワーキングスペースなどで仕事をして出ていくという。1泊2日くらいのレベルの短期と、1週間2週間、1ヶ月2ヶ月くらいの短期で流動的に人が集まれるような場所を、僕的には行政に主導してもらえたら凄く助かる部分も勿論あるとされている。そういうのを主導してもらって、そこから民間に委託して、民間が主導してやっていくという場所をつくれれば、もっと関係人口は増えるという風には思った。

仕事があるかどうかで長くいられるかどうかが変わってくると個人的には思うが、仕事を用意するところまで考えると少し重くなってしまうと思うので、まずは仕事を持っている自由な生き方をしている人たちをどれだけ呼び込める場所をつくってあげるかというところと並行して、長期でいる人を増やすために、仕事もアテンドできるような環境を整えていくという風にするのと、とりあえず気軽に来てもらって、そこから気に入ったら長く住んでくれる人が増えていくという流れもつくれるのではないかと考えた。

## 委員

この前も言ったかと思うが、収穫ができた時や、ホタルイカが獲れた時、メリカでの朝市と一緒にバーベキューをする、という感じで、テントを立ててそこら中で何かを焼いているという、そういう文化を生み出していけると良いとされている。大体52個くらいイベントをすれば、毎週1回何かできる。そこで人と人が自然と触れ合うような場所ができたりすると良いのではないかと感じる。

何故そんなことを思うのかと言うと、まず滑川市民の行動特性として夜が出にくい。小さ

いお子さんがいるご家庭だと夜は出にくくて、逆に土日は子どもを連れて行かないといけないみたいな特性があるので、土日に出歩いて、そこで飲んで遊べて、バスで帰るみたいな文化ができると良いと思う。

後は飲める場所が少ない。これを増やすのは難しいと思う。実際にずっとオープンして続けていけるかという、飲む人数が少ない以上かなり厳しい。現状どれだけ良い店を持ってきても、その店は繁盛するかもしれないが、結構厳しい部分があると思う。「じゃあ、みんな楽しんでじゃえ」みたいな文化が何かできたりすると良いと思う。最初はほたるいかミュージアムの辺りで、2週間に1回くらいの割合で、皆で何か焼いているみたいなことから始めて、だんだん広がっていくみたいな仕掛けができれば良いと思っている。

#### 委員

僕の個人的な感覚だが、まず、自治体が税金を使って関係人口を拡大するという事業を何故やらなければいけないという疑問がある。だから、行政の方から、関係人口を増やさなければいけない理由を教えていただきたい。

#### 座長

では、市の方から関係人口を増やす理由をお願いしたい。

#### 柿沢副市長

地元の人と、滑川を面白いと思ってもらえる県外の人が、一緒になって地域をつくっていく。市民の方にも勿論やっていただきたいと思うが、そう思っただけの外部の方が居るのであれば、ウェルカムとして掲げていきたい。そのためのきっかけづくりである。行政が全部線路を敷いて「その上を走ってください」ということは、僕はできないと思っている。きっかけを行政がつくって、民間の方たちのコミュニティがもっともっとそれを盛り上げてくれる。市としても民間の取り組みを応援する立場でやっていけたら良いという風に思っている。

#### 委員

僕がイメージしていたものとは少し違っていた。

僕が思っていたイメージは、最初に国で地方創生という事業が起きて、「移住をどんどん促進しましょう」と移住政策をしたが、あまり上手くいかない。だから、「移住者の募集ではなく、まず関係人口というステップを踏んで広げていきましょう。今は関係人口のステップです」ということであれば、最終的には住民の数を増やすというところが、関係人口の目標なのかと思ったのだが、今の話でいくと、どちらかと言うと人口というよりはこの地域のコミュニティがもっと面白くなるとか、何か若い世代が未来を感じてくれるようなという方向であるのであれば、それは面白いのかなという風に思う。

どうやって広げていくかという部分は皆さんの意見で納得できるので、「何故やらなければいけないか」という部分も併せて発信していけると、納得感が強くなると思った。

#### 委員

そもその話だが、「交流人口・関係人口の拡大を何故やらなければいけないのか?」「どこに向かっていくのか?」というゴールを皆でクリアにしておかないと、それぞれのアイディアは出てくるが、噛み合わない部分もたくさんあるのではないかなと思う。

5年前から大学1年生のゼミでこの地域課題解決をやってきたが、その時のゴールは移住・

定住をどうやって促進するかという話だった。どこの地方都市でも抱えている、この人口流出・人口減少。消滅都市にならないようにということで、首都圏から若い子育て世代を如何に呼び込んで定住させるかという話で、具体的などころを若者に考えて欲しいというので、4年間やってきた。

学生は「住まいを変えるということは本当にエネルギーが要るので簡単に移住なんてしない」という話で、その通りだと。それで、滑川という知らない土地との距離感を、意識的な距離感を縮めるために何ができるかということに僕たちが考えなければいけない、と。まずは滑川に足を運んでもらう。言ってみれば、ここで言う交流人口だと。滑川は紙ベースしかなかったので、「オンラインを使おう」と言って、ホームページを構築したり、SNSを使ったりした。やはりその距離感というのはとても大事なところではないかと思っており、最後の年はふるさと納税のホームページサイトのリニューアルに取り組んだ。12月26日に公開して、最後の駆け込みの2週間は凄く上がった。プラス100万円とかという話になっていた。学生が調べたところ、富山県は全国47都道府県でふるさと納税は下から2番目で、滑川はその富山県の中でも最下位の方だった。

関係人口の話もたくさん出ているが、片やこのコロナの状況はまだまだ続くと思うし、なくなっても、オンライン上で滑川に行くというメタバースの世界も出てくるだろうが、滑川ファンをたくさんつくるといところで、味方やファンをつくるということも必要なのかなと思っている。税収もアップする、滑川との距離感も近くなるというような、交流人口のところもしっかり抑えていかないといけない。ゴールはやはり移住・定住を目指す、その前のところの交流人口、それから関係人口を、いかに増やしていくかという議論を意識してやっていくべきなのかなという風に思っていて、少しその方向で喋らせていただいた。

これが次のキャッチフレーズのところにも関わっていくのではないかと考えている。

#### 委員

先日、日経で神奈川県川崎市と東京都世田谷区が全自治体の中で、ふるさと納税の流出額が多額の自治体だというニュースを見た。私も家族で出せるだけのふるさと納税の額を使って、もう如何に得しようかといつも考えている側である。富山県にふるさと納税をしたいと毎年思うが、良い返礼品がない。

特にこの2つの自治体は、私の主観だが子育て世帯で、世帯年収で言うと大体1,000万超えくらいから2,000万円くらいの世帯が結構多く住んでいると思っている。特徴としては、ふるさと納税で例えばお肉1.5kgとか、何か得ができて良いものがもらえるような自治体にどんどん注ぎ込んでいる人が多い。

だから今言った世帯の人たちが欲しいと思うものがあれば、正に移住して欲しい人たちや関係人口にしたい人たちに刺さるのではないかと考えた。

#### 委員

先ほどの副市長の話であるなら、関係人口を別に県外に求めなくても良いのではないかと考えた。

滑川は通過のまちだと思う。富山市の人に聞いても「滑川には行かない」と言われるし、魚津の人に聞いても多分「滑川には行かない」と言われると思う。行く用事が無いか、行っても家族の用事を済ませて帰るという状態で、他の人と交流する時間やコンテンツがないのだと思っているだから、それをつくらない限りは、近場の人であってもずっと通過のまちである。

折角子育てのまちであるなら、お母さんたちに目をつけて、お母さんたちの課題感を引っ張り出せるきっかけがあって、その人たちから誰か課題感を持っていて、声を上げて、背中を押してあげたら動いてくださるキーマンは、絶対にこれだけ人口がいたらいらっしゃるの、その人たちをちゃんと育てていったり、繋がって「やろう」という環境をつくれれば、そこから自分たちから何か行動を起こしてくれる人は増えると思う。そしたら子どもに対するケアとかも、もしかしたら民間の方で起こってくるかもしれないからではないかと思う。何かここに立ち寄る理由や、対話を始めるきっかけみたいなところを何かつくってあげて、まずは富山市とかから来てもらうとか、そこから始めても良いのではないかと感じた。

#### 委員

今の意見に賛同する。

ミライノミカタの募集要件にあるのは「県外に居住するテレワーカーか県外の事業者等であること」。まず県外であることである。でも、滑川市以外であれば良いのではないかと思っていた。居住するにも、見に来るにも理由がある。その時に来なくてはいけない理由がどこかに無いと、本来はなかなか来られない。ちょっと来てみたいとか。理由づけが弱い。住んでみたいに関しては「ちょっと」では無理なので。そこにどうやって辿り着かせるかというのは、滑川市以外皆一緒だと思う。その課題はずっとあると思う。

その中では、住民サービスで市が頑張ってもらわないと、なかなか居住したいというところに最終的に行きつかないような気がする。最終的に居住するなり、暫くそこに滞在したいと思うには、やはり行政の力が必要で、そこに資本が入っていないといけないと思った。

#### 委員

世帯年収 1,000 万円から 2,000 万円くらいの人を仮のターゲットにして、ふるさと納税商品をつくるというのは、かなり有りなのではないかと思った。僕たちは大体滑川に住んでいるので、地元の人気持ちしか分からない。本来はもらうべき人の気持ちでやらないといけないと思う。

ホタルイカに限らず、交流を深めたいとか、移住でも良いが、来てもらいたい人のターゲットに合わせて、その気持ちになっていないといけないのではないかとこのところは少し考えた。

「ひとり交流・関係人口拡大プロジェクト」というのは 10 年くらい前からやっていて、思うが、奥さんが東京の人だったら、都内で結婚してマンションを買ってしまうと、完全に富山に戻すのは無理である。どれか一つの要素が欠けていたら、可能性はあるが、やはり富山県出身ではない方と結婚して「富山に移住してください」というのは、相当ハードルが高い。僕のサンプルでいくと、女性が富山県出身の場合は、男はついてくる。

だから、相手の気持ちになってみるというのが、結構大事である。

それと、最終的には僕は仕事だと思っている。仕事を創らないと結局は来られないので、どうやって仕事を滑川市内に創っていくのかということが大事であるが、相当長期戦になるという感覚はある。

#### 委員

意外とうちのお客さんは市外の方が多くて、常々滑川市の人と交流が全くないなと思っていて。Instagram や Facebook で発信しているが、惹かれて来られるのが、県外の方とか、富山市の方、高岡市の方が多い。私としてももっと市内の方に働きかけたいと思うのだが、

その場所がない。

来ていただくには、駐車場の問題とか、トイレの問題などもある。先ほど言われたバーベキューとかも本当言うと、収穫祭ということで凄くしたい。だけど、やはり場所がないというのが、ネックになっている。

中滑川のメリカが新しくできたので、少し期待している。「イベントができるスペースを貸します」みたいなアピールがあると良いかなと思う。イベントをやりたいという人は、巷にいっぱい居るので。私もりんごを販売するにあたって、10年前くらいに結構あちこちのショップやカフェに働きかけて置かせていただいたり、イベントをしたりとかしていたが、当時は滑川にそういう場所がなかったので、市外に出るしかなかった。そういうアピールをする場が滑川には少ないので、増えていくと良いと思う。

委員

先ほどバーベキューをやりたいという話があったので、4月29日に「滑川ソーシャルバーベキュー」を開催したいと思う。皆さんにご参加いただきたい。

座長

場所はどこになるのか？

委員

場所は中滑川複合施設メリカの芝生広場を利用して、できたら良いと思っている。

座長

先ほど滑川の人間は、夜はあまり動かないという話もあった。是非、皆で参加を。

委員

前の観光の時も言ったが、滑川の方は本当に滑川のものを珍重されない。だけど、実際には市外や県外の人がそれだけの価値を見出していてくれる。

バーベキューも良いが、そういうものを醸成していかないと何をやっても駄目だと思う。

「ホタルイカ凄いよ」って。駅前で訊いたら皆喜んで、「行ってきて」と言う風にしないと。是非、何かそんな仕掛けを作っていただければ良いのではないかと思った。それが全てに繋がるのではないか。

委員

普通に学校に通っている学生は、こういう会議に参加させていただくことは多分ないので、行政や市に関わる機会は、限りなく少ないと思っている。でも、大学生は結構、暇だと思う。時間もあるので、上手くそういう人たちに働きかけて、何か捕まえられたら良いのではないかと思っている。大学生は他県の方も結構いるので、そこから関係を繋げていけたら良いと思っている。

自分は来年には一応富山を出る予定になっている。いつかは帰ってきたいと思っているが、そういった時のために色々な情報をキャッチしていけたら良いと思っている。自分が外に出ても、何かしらの形で関わっていけたら良いという風には考えている。

座長

是非、富山に戻って来ていただきたい。

他に何かご意見等はあるか。

委員

意見ではなくて要望であるが、ホタルイカ漁の藁の網、あれを作ってみたい。誰か調整してくださる方はいないか？

あの網は滑川で作っているのかと思っていたら、違っていた。その業者はもう1個しかないと聞いた。そのツテは無い。ただ、滑川はあんなにホタルイカ、ホタルイカと言っているのに、網を作っているのは市外なんだと思った。網がサスティナブルに海に落とされて、ちゃんと海のことを考えているというところが凄く立派なストーリーであるのに、作っている様子も知らなければ、その藁がどこから来ているのかも知らないのだから、体験として作ってみたい。

座長

今の要望に関して、市側から返答をいただけるか。

柿沢副市長

今のは凄く良い提案だと思う。滑川のホタルイカ定置網の一番大事なところのそれを、そもそも知らない。作ることによって凄く愛着が湧くと思う。今の定置網であれば漁業協同組合であろうし、別のことであれば商工会議所かもしれないし、ご相談してそういったところを高校生などに体験してもらおう。そしたら、県外に出ても戻って来るような体験をやっていけるように頑張りたい。

委員

その網は垣網と言う。その垣網は、実は皆さんが思われているものと少し違っていて、目の細かい網ではなく、凄く間が空いている。ホタルイカを誘導する網であって、ホタルイカを捕る網ではないので。ホタルイカが沖から産卵に来て、帰りにそれがガイドになって網に向かっていく。だから、その間は凄く広がっていて、ホタルイカが通れるようになっている。

通過できるということは、逆に言うとそれ程緻密な作りではない可能性もある。そうすると、市民参加型というのも結構ありかもしれないと感じた。1年に1回捨てるものなので、結構お金が掛かる。

全ての網は無理でも、例えば滑川の11ある垣網の内の1本を滑川市民で作るものにして、そこに予算を組んでもらって、春網組合もお金を出さないと網を買えないので、何か活動すれば、可能性がない訳ではないかもしれない。11の内の1くらいであれば、その業者にもそれほど迷惑をかけないとは思っている。

座長

網を作って、ホタルイカを捕って食べる。そこまで実現できれば良いと思う。2番目のビジョンについても、関係してくる気がする。

他に何かご意見・ご提言はあるか。

委員

最近、射水市で古民家を借りて、20代30代のまちを盛り上げようとしている若者たちが集まっている場所ができている。滑川も良い古民家を提供してくれれば盛り上げるので、

場所がほしい。

そういう場所があると、酒を飲んで交流して、そのまま寝て帰れるからという風に、気軽に寝て行ける場所があれば、そういう交流が生まれやすいと思う。後、富山に大学とかで来て、また帰って来なくなる理由として、富山に帰って来られる場所みたいなものがあればまた帰って来なくなると思う。宿などのビジネスチックなものではなく、もっと気軽なコミュニティの場、かつ、ちょっと泊まっていけるような、家感覚で使えるような交流の場を滑川でもつくってあげれば良いのではないかなと思う。呉西で今盛り上がりつつあるので、呉東でもつくってあげれば良いと思う。

先ほど多拠点生活のサブスクの ADDRESS などの話もしたし、他の委員からも引っ越しの時のハードルを下げるという話もあった。心理的なハードルもあるが、結局引っ越しするとすると、家具を買ったり、敷金・礼金など物理的なハードルも凄く高いと思う。事前に用意されている場所があって、気軽に体一つとバッグ1個くらいで行ける場所が用意されているとなると、一度滑川市に触れるということ自体は凄くハードルが低くなり、機会も創出しやすくなると思う。

後もう一つ、HafH（ハフ）と言う宿泊のサブスクがある。その利用者に HafH を使っている理由を訊いた時に、「他の宿がいっぱい載っているサイトを使うよりも、定額でお金を払っており絞られているから、考えなくて良い」みたいなことを言っていたので、この情報が溢れている時代に、凄く良い仕組みだと思った。

これらのサイトに滑川市の古民家を多拠点生活の一つとして登録しておけば、「北陸のどこかに行ってみよう」とか、「どこかに2週間くらい滞在して仕事をしてみよう」と考えて調べた人が、滑川市に行きたいとかではなく検索に引っかかったことで滑川市に触れていくことになる。拠点自体は増えてきていると思うが、サイトに登録されているものは少ないと思うので、そういう少ない選択肢の中に潜り込んでいって、拠点の一つとして滑川という場所を提案してあげるとしても良いのではないかなと思う。

## 委員

実は僕も交流人口の拡大と言うと数年前くらいの感覚でいた。つまり、移住・定住させて、減る地方の人口を増したい。でも、いきなり移住・定住は無理だから、まず関係人口を増やすという視点なのかなと思いついていたが、それよりもどちらかと言うとイノベーションということだった。外部の意見などを取り入れることによって、もっと楽しいまちをつくりたいとか、無い視点を入れていきたいというのは凄く良い考えだと思う。

僕は関係人口は凄く大事だと思っているが、今はネットでも繋がれる時代なので、極端な話、滑川に戻って来なくても良いのではないかなと思っている。問題なのは、関係が切れてしまうことである。年に1回戻って来るような関係は関係が繋がっているとは言えないので、もっと頻繁に関係が切れずに残っていて、市の内側だけではなく外側からも様々な形で市を応援してくれるような、ネットワークができると良いと思っている。

富山県人会などがあつたと思うが、それよりももう少し小さく、「市長と語らんまいけ・東京版」とか「大阪版」とかみたいなものを実施してはどうか。30人くらい集まって、市内の人ばかりの話ではなく、市外の方の話も聞く。多分、市外の方は滑川市の最新の状況が良く分かってない部分があると思う。知ってもらえれば来なくなるので、そういう意味では3大都市圏などに居る滑川縁の人たち——必ずしも滑川市出身じゃなくても良いと思うので、関係がある人たちが集まって、様々な声を聞いたり、その人たちが持っている知見みたいなものを、リモートでも何でも活用させてもらったりしたら良いのではないかなと思う。

関係人口の拡大と言うと、何か来てもらうとか知ってもらうことと考えがちだが、こちらから行って手伝ってもらうようなことがあっても良いのではないかと思った。

#### 水野市長

今のご提案は是非実行に移したいと思っている。「市長と語らんまいけ」は9地区それぞれ回ったのが1回と、目的別みたいなもので、「出張版・市長と語らんまいけ」を、文化協会の団体の人たちと1月21日土曜日に実施する。文化ホールをどうするかというのが私のマニフェストに入っている。

また、「職員版・市長と語らんまいけ」として、職員150人と全て対話を交わしたところである。色んな要望も含めて、10月くらいまで5人ずつのグループで、副市長と一緒に話を聞いた。今言われたように、こちらから出向いて行かないとなかなか上手くいかない。今言われたように東京滑川会、関西滑川会、などとはお付き合いがあるので、そういったところを通じて、滑川に多少なりとも関係していた方々と今の滑川市の現状も訴えながら、そういった場も設けていければ良いと思った。素晴らしいご提案に感謝申し上げます。

#### 座長

やはり、待っているだけでは駄目だということで、行動を伴わなければいけないということである。他に何かご提言・ご意見はあるか。

#### 委員

東京滑川会や関西滑川会という話が出たが、企業経営者などの方が中心になっておられると聞いている。その方たちに求めるのではなく、東京滑川会青年部とか、その方たちから少し広げていただかないと、難しいのかなと思った。どこまでを若いと言ったら良いのかは分からないが、子育て世代などの方々が魅力的なまちというのを引き出すには、恐らくその後継者の方など、そういう方が興味を持って聞いていただけないかと思う。それと、私が会社を出る前に県内のある自治体からSDGsを掲げて企業版ふるさと納税の話がきた。滑川の方にも当然そういう制度があって、その中でその用途についても公に掲げられている。滑川で言えば、本社が滑川にない大手の会社もあるので、そういうところを少し巻き込むということも、一つではないかという気がしている。

#### 委員

この間、瀬羽町にある廣野家というところを見学させてもらった。橋場にある重要文化財だが、病院の跡地もきっちり残っていて、隣は本当に綺麗な古民家が残っている場所だった。でも、オーナーが別の場所にいらっしゃるので維持するのも大変で、行政がどう入ろうかというのと、瀬羽町をずっと守ってきたNPOがここをどうしようか、と。でも、自分たちも世代的に年齢が高齢化してきているので、若い世代にその活用を考えて欲しいという話が出ていたので、先ほどの「場所を提供してください」というところと上手くマッチしたら良いと思ったので、情報共有としてお話した。

#### 委員

今、ミライノミカタに参加して下さっていた方と、土肥委員さんと一緒に滑川高校に行って、商品開発をしている。ミライノミカタというものがあつたからこそ、まちの中に新しい空気と、新しいアイデアが生まれて、商品が生まれてくるというものが出来上がっている。ミライノミカタをこれからも続けていただけると嬉しいという意見である。

座長

ミライノミカタはこの後も続ける予定であるのか？

柿沢副市長

そうしたいと思っている。

座長

藤野特別アドバイザーから今までのお話の中で、ご意見をいただきたい。

藤野特別アドバイザー

皆さんの話は本当に素晴らしい。ワクワクしてきた。今お話になられたところに、もう殆どのネタが詰まっているのではないかという風に私は思った。

例えば、ふるさと納税である。ふるさと納税は非常に可能性があると思っている。ふるさと納税の場合は出口が全国であり、かつ、非常に目を皿のようにして探している人たちがかなり居る。後、地域の中の商材を上げていくということができるので。また、先ほどご指摘があったとおり、富山県全体でふるさと納税が低調であるということであれば、頑張れば滑川市が富山県の中で上位になることができる。ある面で見れば、この位置付けと、ふるさと納税で仕事を創るという面で見ると、これはかなりアップサイドがあるという風に思っている。実際に各地の地域創生の中で、ふるさと納税を上手く使って、その地域の中の若者のビジネスを拡大するののかということが大きなテーマになっている。そういうことを良く分かっている方もたくさんいるので、もし何か意見やアドバイスが要るということであればご紹介することができる。

バーベキューの話も再三再四出てきている。今度、「滑川ソーシャルバーベキュー」という話をされたが、これは面白い。「ソーシャルバーベキュー」と検索してみると、幾つかはあるが単発的なものらしい。「滑川ソーシャルバーベキュー」という言葉、これはジャックできるのではないかと。「ソーシャルバーベキュー」と言うと、滑川。何がソーシャルバーベキューなのかも必要だが、これは結構パンチーな言葉で面白いと思った。「ソーシャルバーベキューのまち滑川」みたいなところをイメージしてやれると面白いかなと思った。

これは最初の時のテーマからずっとあるが、ホタルイカは富山県の色々な地域で捕れるが、やはり滑川にとってホタルイカは最大のコンテンツの一つなので、このホタルイカというところは十分に使いたい。

その中で、ふるさと納税で見ると、本当はホタルイカの何が面白いかというと、食べるだけではなく、体験価値なのではないかという風に思った。だから、ふるさと納税として、この体験価値を上げるようなものがあったとしても良いと思う。10万円くらいのもので、実際に現地に行って、漁師が数日の中でベストな時に連れて行ってもらう。ひょっとしたら外れる可能性もあるということもちゃんと言いつつ、実際にホタルイカ漁を体験して、食べられるとか。更に良いところに泊まれるみたいなパッケージであれば、行く人は行くと思う。例えば、今、富山県はレストランであったり、オーベルジュが盛り上がっているので、そういうところと提携して、ホタルイカづくしのコースを作ってもらい、ふるさと納税と絡める。有名なレストランなどでホタルイカのコースを食べられるというようなことになれば、全国から来るのかなと思う。

あと、これもまた再三再四言われている、瀬羽町そのものも非常にコンテンツとしての価値がある。そこでどうやるのかは別だが、バーベキュー体験ができるとか、ふるさと納税

と絡めて何かのイベントをするということができると良いと思う。

これは提案だが、富山県で去年の11月から SCOP TOYAMA という創業支援センター/創業・移住促進住宅をつくった。これは元々蓮町にあった公務員住宅を改装して、シェアオフィスであったり、移住したい人への住居提供であったり、シェアハウスをくっつけたものになっていて、人がポチポチ入っている。これは富山県の方にも言おうと思っているが、そもそも富山県で何かしたいと思っている人が入ってきている訳だから、ここに各市町村が営業に行っても良いのではないかと思う。「滑川市で働きませんか？」とか「滑川市で本格的に起業しませんか？」というような、営業をしに行くと結構聞いてくれるのではないか。是非市としても活用していただいて、市に呼び込む。これは富山県としても移住や起業の実績になるので良いことである。そこでスペースが開けば、また全国から SCOP TOYAMA に人を呼んで来てということになれば、これは非常に良いことになると思うので、是非 SCOP TOYAMA に、市長や副市長、地域のエースの方に市の魅力を語っていただけたら良いのではないかと思う。

最後に一言、交流人口の話だが、交流人口で凄く大事なことはマインドシェアだと思う。心の中のシェアをどれだけ取るのかという話。要は全国の人たちに、「将来住みたいとか遊びに行きたいまちを自由にたくさん書いて」と言った時に、滑川がどれだけ上がるかという話だと思う。心の中で、滑川というところを1%でも2%でも良いから、滑川というところに対する縁をどれだけ創るのかというのは凄く大事なことだと思う。だから、マインドシェアを高めていくというために、何ができるのかということを考えていく必要があると思う。

そのためにはホタルイカとかバーベキューで呼ぶとか、ふるさと納税を使って呼び込むとか、それから移住体験促進であったり、仲間と話せるとか若者で集えるとか、何か一つで上手くいくことはないと思うが、駆使しながらいくと良いのかなという風に思う。

何よりも財産は、皆さんである。ここで「滑川をどうやって楽しくするか」ということを言っている皆さんが、財産だと思う。だから皆さんをどうやって売り込むのかと言うのも、とても大事な事かなという風に思った。

座長

藤野アドバイザーには具体的なご提案もいただき本当に感謝申し上げます。

まだ話が尽きないが時間が押しているので、次に行きたいと思う。

## 【議 事】②滑川市の将来ビジョン（目指すべき姿）について

座長

2番目の「滑川市の将来ビジョン（目指す姿）」についてということで、第1回から今回の第5回まで、各分野において、色々なテーマで皆さんのご意見・ご提案をいただいていた。それも含めて、今後の滑川市の将来ビジョン（目指すべき姿）と、キャッチコピーを。先ほど副市長からは、「幸せ人口1,000万人～ウェルビーイング先進地域、富山～」という富山県のキャッチコピーの紹介もあったが、2つ合わせて、お一人ずつ順番に聞いていきたいと思う。

最初に私が言いたいという方はいらっしゃるか？

委員

具体的なことは言えないが、先ほどの話とかを聞いていて、バーベキューをやりたいとか、網づくり体験をやりたいみたいなことを、委員である私たちは直に市長に伝えることができているが、実際に住んでいる方々からも、そういう「何々したい」という意見を出していただき、実際にそれができれば幸せみたいなものに繋がるのかなという風に思った。

1番目は、そういう「皆でやりたいことができるまち」みたいなものが良いかなという風にざっくりと思っている。2番目にはキャッチコピーみたいなフレーズを考えた時に、「何とかが叶うまち」みたいな、クリエイティブっぽいものがあると良いのではないかなと思った。

委員

皆さん好きなことを言いたいと思うので、本当にバラバラになると思う。

市長が市長になれる前にマップを作っておられた。それを今日配布されるのかなと、僕は思っていた。それとこの会議第5回の話と重なっているところを絞り込んで、市長の公約実現もあるし、それ以外の私たち一般市民の意見もあるしで、上手くそれを融合させて、方向性を出していくというようなストーリーなのかなと思っていたので、ハードルが高いと思った。

座長

自分たちの立場からで良いので、ご意見等をいただければと思う。

委員

僕は昔から「こうしたら良いのに」と思っていることが、大人の事情でやれないということに関して、疑問や悲しさを感じるタイプで、そういう意味で言うと、3万人という自治体なので、「本来はこうあったら良い」ということを実現できるような自治体だったら良いのではないかなと思う。

具体的に言うと、日本の公教育は終わりつつあるけれども、防衛費は増大を続けている。国としてはそういう方針ならそれは良いとして、例えば滑川市だけでも、若年の公教育にどかっと予算をつけてみるみたいなこととかができたりしたら、どうなるんだろうか、と。選挙権の関係もあって、どちらかと言うと高齢者優遇の施策が国単位では通ると思うが、それを思い切って明石市などと同じではなくて良いと思うが、本当の意味で子育て支援—これは予算をつけるとかではなくて、子どもにとって楽しいとか戻りたくなるまちとか、

そういう意味で、子育てに特化して支援してみたら、本当は日本人の多くがこうだったら良いのにと思ったけど何でそうならないんだろうかということ、3万人という自治体だったら実現できると思う。

予算配分の観点からも、ちょっとご検討いただけたら良いかなんて思っている。

#### 委員

私は2番目は全く思い浮かばなかった。

1番目も、どうしてこんなに何も浮かばないのか考えていたんですが、「滑川市」の将来ビジョンと書いてある。「滑川市役所」ではなくて、あくまで「滑川市」という自治体。言い換えれば「滑川市民が何を指すか？」みたいなものを問われているのかと思って、「地方自治とは何か？」みたいな、そこまで深く掘ってしまわないと出てこないのかなと思って掘ってしまったんですが、そうしたらもう見事にドツボに嵌って、何も出てこなかった。地方自治の「自治」、自分たちで治める、自分で自分たちの暮らしを良くしていくという部分で、新しく見てきたら、「幸福と生命と自由の追及をする権利が守れるような」という部分があったのでそういう観点から言うと、自分たちで自分の人生を決めていくというところなのかなと思った。良いか悪いかは分からないが、富山県の幸福の指標もできたので。そういった部分は、市民の方から動いていけるということなので、滑川市役所が将来、このビジョンを作らなくても、市民の方で勝手にビジョンが生まれていくというような状況が本当は一番良いのではないかなと思った。

今回はそこまでしか掘れなかったので、また宿題があればやっていきたいと思う。

#### 委員

「距離の近いまち」というのが良いと思った。山への距離、海への距離、山から海への距離、コンパクトシティのコンパクトさ。それから、市長との距離、ホタルイカ漁も沖まで行かずとも捕れるこの距離が鮮度を保っているのもそのホタルイカの距離と、住民の心の距離の近さが良いまちだなという風に思ったので、私は「距離の近いまち」をキャッチコピーとして今創った。

#### 委員

滑川市はどのような市を目指していけば良いかという案だが、やはり住民同士が近いまちが一番良いと思う。私が住んでいる地域では毎年交流会として、夏にバーベキューをしたりスイカ割りをしたりする。住民同士の心が近ければ、お年寄りと小さい子たちが触れ合える機会があって、住民同士だけではなく、滑川市民が滑川市役所に意見を届けるために、意見箱とかを設置して、それを滑川市の政策などにも活かしていけたら良いと思うので、「住民同士が近いまち」が私は良いと思った。

#### 委員

滑川高校の生徒は富山県内の色々な所から来ている。高校生がSNSなどで広めることも多く、話題になるというのは結構ある。滑川市のInstagramとか言われても、高校生とかは正直に言うと誰も見ていないし、そもそもやっていることすら知らない。だからもっと高校生を使って広げていくべきではないかなと思った。折角、滑川高校があって、色々な所から来ているから、その高校生を利用すれば良いのではないかなと思った。

## 委員

滑川市のビジョンは、まだ良く分からない。

個人的に僕が滑川に帰って来て、どんな想いでやっているかと言うと、「富山県や滑川市には何があるのか」と県外の友だちに訊かれた時に、「何もない」と言ってしまう。それが良い所でもあるが、何か悔しくて、「何もない」と言えないくらい圧倒的な場所をつくれれば良いのではないかと考えている。僕は旅人として国内外を旅してきた時に、誰かがつくった目的地を目指して旅をして、そこで色んな人と出会って色んな思い出ができて人生が変わってきたので、次は誰かの旅の目的地をつくる番だなと考えている。

滑川という場所に、何か面白い場所を検索した時に出てくるような場所。寒い時期でなければ、日本一周の旅をしている子とかが週1~2くらいで、うちに来る。「日本一周・富山」で調べたら引っかかったので良く分からないが面白そうなので来たという感じで、少しずつうちは旅の目的地になりつつある。そういう風に、うちだけではなく、ほたるいミュージアムや瀬羽町の周りなど、滑川はポテンシャルを秘めた場所が凄くたくさんあると思うので、何かついでの「通り過ぎる町」とかではなく、目的地として来るようなまちになっても良いのではないかと、折角盛り上げるのだったらそれくらいはやりたいと考えている。滑川は本当に何もないと思うが、何もないから、今から圧倒的な場所をつくっていくやりがいがあると考えている。何もないから0から1を生み出していくというところの面白さが滑川市にはあると考えているので、地元に戻って来て、滑川を盛り上げたいと思う理由の一つとしては、何もないところだと思っている。だから、何もないところが凄く良い意味で強みであるし、何か面白い場所を皆さんとつくっていったら良いと思う。

## 委員

僕はボランティア団体でまちづくりをやっているのですが、そのビジョンが滑川市のビジョンと一緒にあったら良いと思う。

僕らのビジョンというのが、富山県は古い価値観とか常識に縛られがちで、周りの顔色を窺っている大人が多いかなと。その中で大人が夢を諦めてしまっていたりすることが多いとされていて、大人が夢を諦めていると当然に子どもたちも夢を見られない。大人が夢を諦めていて挑戦していなかったら、子どもたちだって当然挑戦できない。僕はこの滑川というまちが、「大人が諦めないですむまち」になって欲しいし、大人たちが気軽に緩く挑戦できる、それから大人たちが誰かの夢を応援できるそんなまちになったら良いと考えている。そんな感じになったら、子どもたちが誇れるふるさとなるのではないかと考える。キャッチコピーとしては、「子どもたちが誇れるふるさと滑川」とか、そんなような形になったら良いなと思う。

## 委員

今、言われたが、「子どもたちが誇れる滑川」ということで。

先ほど市長は文化ホールのお話をされた。滑川中学校の吹奏楽部で年に2~3回くらい行っていたが、子どもたちが「あそこでやるのは嫌だ」と言う。子どもに付き添ってコンクールやコンサートなどで、県内・県外の色んなホールに行くが、滑川市のホールほど酷いホールは無いと思う。調べてみたら、私が生まれる前からあると知って、凄く驚いた。舞台も狭い。滑川中学校は結構吹奏楽で言うと呉東側では強豪なので、そこを活かせるホールがあると良いと思う。

子どもたちは、「成人式もあそこでやるんだと思うとちょっと悲しい」と言ったので、今直ぐにどうこうできる話ではないが、将来的に誇れるようなホールを、是非とも造っていた

だきたいと思う。

#### 委員

あまり難しいことは言えないが、結局第1回から聞いてきてずっと出てきているのが、やはり「子ども」だと思う。先ほどのバスの話や、ホタルイカの工場見学の話、船に乗ってほしいという話、滑川市が子どもに力を入れていることも含めて、子どもが一番テーマとして挙がってきた。長期のビジョンで見た時に、その子たちが「戻って来たい」とか「帰って来たい」、もしくは向こうに居る時に「行きたい」、そういうところに最終的に行きつければ、色んなものが解決するのではないか。そのために、自分たちに何が努力できるかというところだと思うので、何か貢献できればと思う。

私の中でのキャッチコピーとすれば先ほどの「子どもたちが誇れるふるさと滑川」というのもあるし、「帰って来たい」とか「戻って来たい」とか、そう思われるようなまちになるのが一番良いと思っている。

#### 委員

「滑川には何があるのか」と訊かれて、「何もない」という言葉以外を何か生み出すという観点でお話をさせていただくと、気合は必要だが、「日本一寿司が美味しいまち滑川」とかはどうかと思った。特に外に出て来ると分かると思うが、富山県は寿司が美味しいランキングで堂々1位みたいなのところがある。滑川は寿司が美味しいと言っているが、「富山県でどこの寿司が美味しいのか」と言われると、いまいち言い辛いところもある。それなら早いもの勝ちで、滑川市は深層水もあるし、ホタルイカも捕れるしということで、「日本一寿司が美味しいのは滑川です」と、一番乗りで言ってしまうのはどうかと思った。凄くキャッチーな言葉なので、「ちょっと行ってみたい」という話になるのではないかな。勿論、「日本一」と言うと、「いや、うちの方が一番だ」と言ってくる自治体も出てくると思うが、言った者勝ちなので、先にジャックしちゃうのはどうかと思った。

#### 委員

本当に色んなお話があった。キーワードで「子ども」というのが出ていたが、滑川は新しいものに取り組んだりというのがあるが、一方で例えばねぶたであるとか、かつて櫛原神社のお祭りが凄く活発だったとか、私の地域で言うと七夕というのがある、それこそお年寄りから習って縄まで縋って、それで作って火を焚いたりとかというのがある。その両方を共存させていったら良いんだろうなという風に思う。そういう意味では、新しいものと、伝統的なものをどこかで融合させたら良いのかなという気がする。

恐らく将来人口推計などでいくと、多分、滑川は成績が良い。大分頑張っているのではないかなという風に思う。それを考えると、大体3万人くらいのボリュームでというようなことで考えていけば良いのかなということで、全部そこに絡んでくると思う。

キャッチコピーは分からないが、何か少し新しいものと伝統的なもの、それと3万人くらいのボリュームというようなキーワードで、もう少し掘り下げてみれば良いと思う。

#### 藤野特別アドバイザー。

皆さんの話を聞いていて凄く思ったのは、何かワクワクするとか、それから何か湧いてくるとか、気持ちが動かされるとかいうようなところの価値観が上手く表現できれば良いと思った。

何か海から色んなものが湧いてくる。例えばホタルイカが湧いてくるし、深層水が湧いて

くる。そういう中で、瀬羽町などで、何か企んで面白いことをやろうという人が湧いてきている。何か煮立っているとか、湧いてきているというような感じを表現すると、僕は「ブクブク」かなと思った。「ブクブクタウン滑川」みたいな。夢がブクブク、ホタルイカがブクブク、深層水がブクブクと、兎に角何かブクブク湧（沸）いてきている。そんな町になると楽しいなという風に思った。

ブクブクと言うとブクブク太るといような意味合いもあるので、ネガティブワードで使うこともあるが、何か湧（沸）いてくる。それから、何か楽しげな感じというものが感覚的に表現できたら良いのかなという風に思った。

#### 座長

6回目に関しては今年度の最後ということで、今までの第1回から第5回をすべて市の方からまとめていただいて、その時にまた皆さんのご意見・ご提言をいただきたい。滑川市の将来ビジョンや、キャッチコピーもその時にまたお聞かせ願えればと思う。

これで本日の議題を終了させていただきたいと思う。